

ホタル と見る 里山の自然

開催日時 平成29年**11**月**9**日（木）午後1時～3時
会場 千葉県立中央博物館本館講堂（聴講無料）

基調講演

ホタルが灯す光の世界 — その多様性と生息環境の保全 —



大場蛭研究所・全国ホタル研究会名誉会長

大場 信義 博士



いすみ市大原のゲンジボタル。写真・大場信義

日本列島は亜熱帯から亜寒帯まで幅広い気候区が含まれ、豊かな水環境に恵まれたなかで各地域ごとに固有な進化を遂げたホタルが分布する。

こうしたなかで、とりわけ身近な田んぼやせせらぎで幻想的に水辺を舞う光景は人々を魅了し、夏の風物詩ともなっている。

ホタルは何のために光るのであろうか？
種によって異なるのはなぜだろうか？

ホタルの光によるコミュニケーションの世界と独自の進化を遂げた生活史の多様性を紹介するとともに次代へ継承すべき環境の保全再生を考える。

自然誌報告 開発地でのホタルの保護，20年をふり返って
& 司会 千葉自然学校アドバイザー・千葉県立中央博物館館友（元副館長） **中村俊彦**

主催：NPO法人 千葉自然学校 千葉シニア自然大学 協力：千葉県立中央博物館・里ちばの会
〒260-0015 千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル7F

問合せ & 受付窓口

電話 043-227-7103
FAX 043-202-7237

E-mail senior@chiba-ns.net

講演者紹介 (Profile)

大場 信義 (おおば のぶよし : Nobuyoshi Ohba) 理学博士 (京都大学)

1975年 横須賀市自然・人文博物館学芸員. 2006年同館定年退官. 現在 大場螢研究所所長、独立行政法人産業技術総合研究所客員研究員、横須賀市長井海の手公園ソレイユの丘ホテル館顧問、全国ホテル研究会名誉会長、

ホテルの生物学の構築を目指して、個体レベルから分子レベルまで包括的研究を進めている。特に発光行動や習性・形態については日本産ホテルのほぼ全種を詳細に明らかにしつつある。さらにホテルの進化の解明を目指し、東南アジア各地での調査や、中国との共同研究を行っている。またホテルを通して環境科学にもアプローチし、自然保全・再生を実践している。

主な著書

「ホテルのコミュニケーション」241ページ. 東海大学出版会. 1986.

「ゲンジボタル」文一総合出版. 1988.

「森の新聞4 ホテルの里」55ページ. フレーベル館 (産経児童出版文化賞受賞). 1996.

「図解親子で楽しむホテルが先生」ぼくらの環境学校」おもしろ選書15:78ページ. ハート出版. 1997.

「ホテルの木」どうぶつ社. 2003.

「ホテル復活大作戦」199ページ. 合同出版, 東京. 2004.

「ホテル点滅の不思議—地球の奇跡」199ページ. 横須賀市自然・人文博物館. 2004.

「ホテルの不思議」307ページ. どうぶつ社. 2009.

「田んぼのいきものたち ホテル」農文協. 2010.

ほか原著論文多数

(Ohba Firefly Institute)



卵を守るイリオモテボタルのメスの成虫



メスに定位した
イリオモテボタル
のオス



クメジマボタル (上左)

ヒメボタル (上中)

ヘイケボタル (上右)

ゲンジボタル (左)

写真・大場信義



千葉県立中央博物館本館への交通アクセス

- 千葉駅東口の7番乗り場から京成バス「千葉大学病院」、「千葉大学病院。南矢作」行き、6番乗り場からちばシティバス「川戸都苑」行きで約15分。「中央博物館」バス停下車、徒歩7分。
- 蘇我駅東口2番乗り場から小湊鉄道バスまたは千葉中央バス「大学病院」行きで約15分。「中央博物館」バス停下車、徒歩6分。
- 京成千葉寺駅から徒歩約20分 蘇我駅からのバスは千葉寺駅経由)
- 車で京葉道路「松ヶ丘」インターから大綱街道を市街地方面へ。県立青葉の森公園北口駐車場を目指す。